

世羅高校 農業経営科

農業経営科は3年次に科目「課題研究」を履修し、1つの班に所属し、研究をする。2月3日には1年の研究成果を農業経営科の全生徒の前で発表した。2月13日の学びピアでも一部の研究を発表する。

農業経営科便り2月号では農業経営科の全研究の内容について紹介する。

野菜班

現代の農業においてスマート農業はもはや切っても切り離せない存在である。農業経営科は昨年度からソフトバンク株式会社と連携し最新のスマート農業を取り入れた研究を行っている。本研究はe-kakashiというスマート農業機器を使って、誰でも作物の栽培が可能な仕組みを作るほか、水などの有限資源を節約する取り組みを行っている。エダマメやトマトの栽培を通して、水資源を守る必要性や、データの処理、整理などの技能を習得した。



地域営農類型

ヒョウモンモドキという絶滅危惧種のチョウを知っているだろうか。かつては日本各地を飛び回っていたチョウも広島県では世羅郡やその近辺でしか見られなくなってしまった。その現状を憂い、保護の会の方々と連携し、研究を続けてきた。今年は環境省から許可を得て、教育機関では全国初となるヒョウモンモドキの通年飼育を行い、見事成功させた。この研究は単に絶滅危惧種を保護するのではなく、農薬に頼らない稲作のPRなどを通して、かつての豊かな里山を取り戻そうという壮大な目的がある。



令和7年度第45回日本学校農業クラブ中国ブロック連盟大会 最優秀賞

令和7年度第76回日本学校農業クラブ西関東大会 出場

第11回全国ユース環境活動発表大会 優秀賞

商品開発班

世羅高校にはケニアから留学生があり、ともに学業や部活動に取り組んでいる。世羅高校で学ぶ生徒たちにとってはこのことは当たり前の光景に過ぎないが、そこに改めて着目し、「食」から多文化を尊重するための研究を行うこととした。本研究では、ケニアではお馴染みのキャッサバを栽培し、ウガリやチャパティなどのケニアで親しまれている料理を作ったり、新たな料理の開発を行った。キャッサバを日本で栽培することは難しく、工夫をしながら栽培を行ったり、留学生にチャパティを振る舞い交流を深めた。そば打ちの研究も行い、日本の伝統についても理解を深め、全国高校生そば打ち大会に出場するなど技術の向上にも余念がなかった。



六次産業類型

2023年の先進7か国首脳会議で振舞われたハチミツは世羅高校の研究で作られたものである。

世羅高校は数年前から世羅の地域で培った養蜂の知識を活用し、広島市中区で都市養蜂を行っている。毎年進化しているこの研究では、安心安全な養蜂を目指し、養蜂GAPを取り入れた養蜂の実践や、ミツバチが多く採蜜できるよう、女王蜂の隔離による採蜜の効率化などを行い200kgを超すハチミツを採取することが出来た。

戦後80年を迎え、当時の広島に植樹された樹木は老化により倒木事故も起きている危険な状態の樹木も少なくない。広島から離れた世羅郡の高校生が、都市養蜂を最大限活用し、それらの樹木を保護し、これからも平和大通りの景観を守り続けていく。



第10回全国ユース環境活動発表大会 優秀賞

副賞：3泊4日北海道旅行

ミツバチ班